

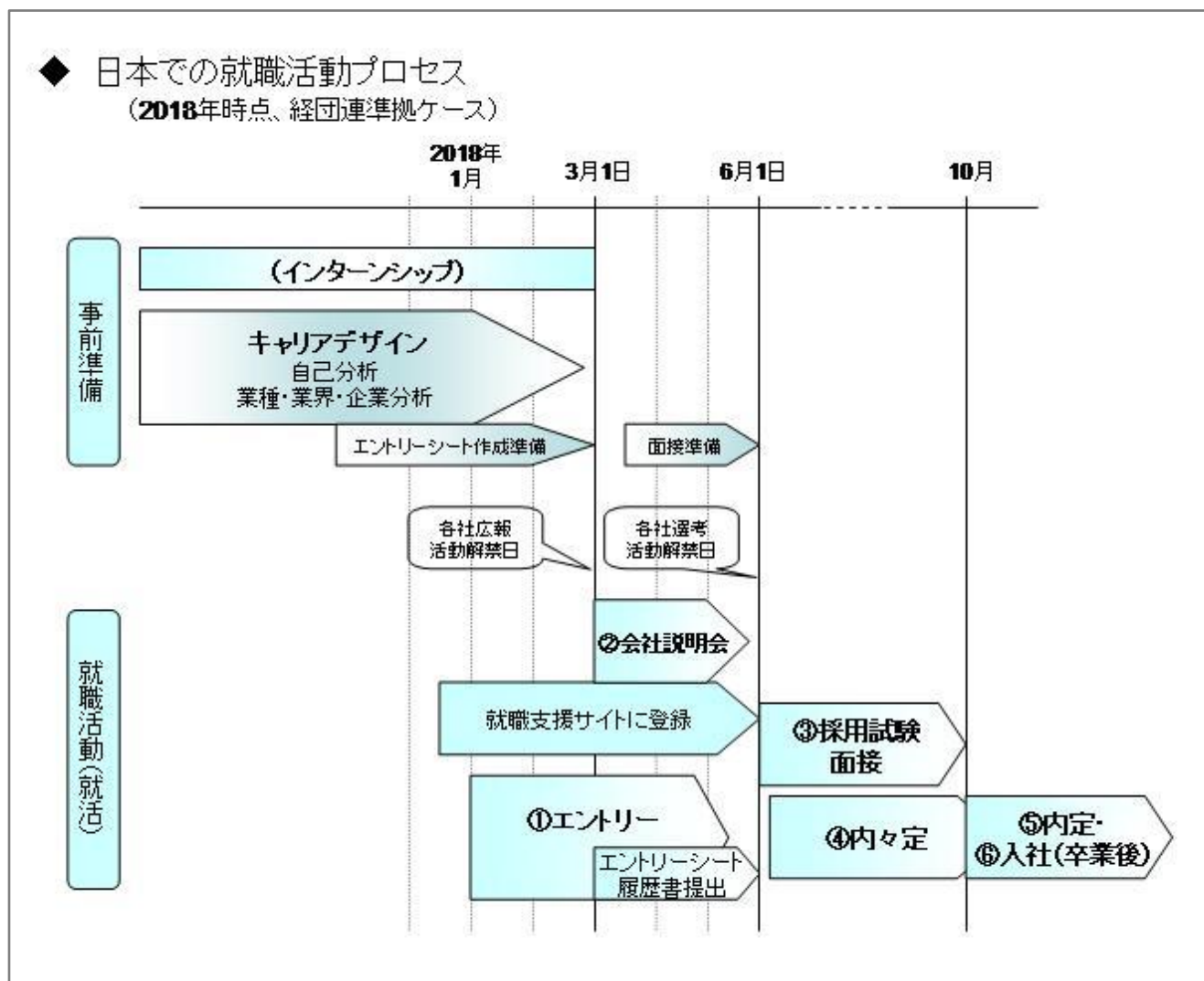
アジア 就職支援ガイド

～ I メイト学生のための就職関連情報～

はじめに

Iメイト学生の皆さんが日本で就職するには、日本独特の就職システムを理解する必要があります。このガイドは日本での就職に関心があるか、希望があるIメイト学生の皆さんを支援する事を目的に、これまでにお届けして来た就活支援通信から、基本的な事項を抜粋したものです。

一般的に日本企業に採用されるための就職活動(略して就活)は、以下の①から⑥のようなプロセスを進んでいくこととなります。



ただし、このプロセスは、経団連(下記注釈参照)に属する企業の場合です。経団連に属さない企業、IT 企業やベンチャー企業などの場合は、1～2月から採用内定(暫定的な採用決定)が出始める企業もあるので、**母国での就活開始時期よりさらに行動を早く始めることが必要**です。

- ☞ 経団連とは：正式名称は「一般社団法人日本経済団体連合会」。
日本の代表的な企業1329社、製造業やサービス業種別全国団体109団体、
地方別経済団体47団体などから構成されており、
政治や行政との対話や調整も含め、幅広い活動をしています。

ここで注目しなければならないことは、日本では、**学生は卒業してすぐに就職するのが一般的**だということです。これを**新卒者採用**といいます。

皆さんのような海外の大学生の場合、卒業時期は大学によって多少異なりますが5、6月が多い事から、日本での採用入社は10月からとなることも多くなります。従って就職の準備は、在学中出来るだけ早い機会、出来れば2年生になったら自分のキャリアデザインをスタートさせ、3年生後半には各会社に対する就職活動に備えるのが理想です。

なお、就職支援サイトのサービスに登録しておけば、企業情報の収集や、企業への応募登録などがスムーズに進むことがあります。

私達就活支援のメンバーは、希望があれば1、2年生のIメイト学生にもパートナーのIメイト会員と連携しながらキャリアカウンセリングを行っています。具体的な就職活動は上記の①エントリーから後ですが、①以降の各段階すべてで、キャリアデザインすなわち卒業後の自分の進路設計(自己分析、業種・業界や会社、業務内容の分析)が十分に行なわれていることが必要不可欠となります。

繰り返しになりますが、キャリアデザインはあとで変わってもいいので、**事前準備は出来るだけ早く行うように**しましょう。

以下の各章では、日本の雇用システムの特徴について述べた後、キャリアデザインの手法、各社へのエントリーの方法、会社説明会に関する情報、さらに、採用試験・面接に当たって留意すべき事項を具体的、実践的に説明します。

第1章 日本の雇用システム（日本の会社で働くということ）

1. 日本の「就職」は欧米やアジア各国の就職とは異なり、長期観察、長期育成、長期雇用を前提としている。

- ・社会人経験が未熟な時期では自身の特性や長所を理解し、仕事に生かせる人は少なく、仕事を通して自分の潜在的な能力を発見し、知識やスキルを磨いて行く事となります。
日本の企業では、その間、上司は部下の日常の言動(単に仕事の成果だけでなく、部下のいろいろな面)を見て、部下についての主観的な判定(査定・人事考課)を行います。
要求される技能が高ければ高いほど長期の雇用と育成が必要となるので、その達成まで長期に観察する必要があり、もし転々と転職していれば長期の観察が出来ない事となります。
- ・変わりつつあるとはいえ、日本企業の特徴ともいえる終身雇用・年功序列、企業内組合の3つがまだ残っており、入社当初の処遇は一律的で、必ずしも高くありません。
- ・日本の雇用契約は入社前にジョブ(職務)を特定する「就職」ではなく、就職した後に、その都度仕事を決める「就社」の為、外国と比べ一般的に雇用契約書は簡素です。
- ・日本以外の多くの国では職務を限定し、職務に対応する形で人を採用し、契約することが多いので、もし対人関係などで職場の環境が悪かったり、適性がなかったりした場合は退職する事となりますが、日本の、特に大企業では人事異動と配置転換の手法を使い、その人に合ったジョブに変更することにより、その会社で働き続け、能力を発揮できるようにしています。

2. 新卒一斉採用、定型的企業内教育・手厚い福利厚生。

多くの国の様に、大学を卒業してから企業でインターンやアソシエイツを経験し、その上で入社するのではなく、日本では在学中に就職希望企業から内定(採用決定の通知)を取得し、卒業後直ちに入社し勤務します。

3. 集団主義的、家族主義的、人間主義的。

4. その他知っておきたい事

- ・日本とアメリカでの上下関係の違い。
アメリカ人はフランクなのではなく、フランクなふりをして、水平関係の演出をしており、日本人は上下関係に厳しいのではなく、厳しいふりをして、垂直関係の演出をしていると言われています。
- ・「ハイコンテクスト社会」と「ローコンテクスト社会」。
日本はハイコンテクスト(共通了解事項が多く、言葉で伝えなくても分かりあえる)社会だと言われています。一方、グローバル社会は共通了解事項の少ないローコンテクスト社会なので、日本は共通了解事項の少ない人達ともやっけて行けるグローバルな人材を採用し、養成しようとしています。

第2章 キャリアデザイン

～自分に合った業界・業種・具体的な企業選び～

1. 自分の目標は何か

アジア各国の大学生だけの問題ではないのですが、最近なぜ働きたいかがはっきりしていない学生が多くなったと、企業の採用担当者からよく聞きます。

また採用担当者はどんな内容でもいいので課題を持ち、その課題の解決に向けどの様に取り組んだか、そしてその経験を通して何を得たのか、自分の言葉で語れる人材を求めています。

それへの対処は「目標をはっきりさせる事」です。就職についていえば、1～2年生の時から時々でいいので、自分の将来に関わるテーマとして目標を意識することです。

例えば卒業後、日本語を活かして日系企業に就職をと思えば、現地の日系法人に就職するのかそれとも日本で就職するのか、それぞれのメリット・デメリットを調べたり、日本への留学や日本語検定の上級資格取得等、何でも見てやろう／経験してみようの気持ちを持って計画的にチャレンジするなどです。

その為にはパートナーの日本人Iメイトから日本語のレベルアップや日本の文化習慣を学ぶだけでなく、将来の夢を語ってアドバイスを求めたり、就職についての相談もして欲しいと思います。

◆（参考）日本でのインターンシップについて

ここ数年、日本はインターンシップ制度を新設したり、実施回数を増やす企業が増えています。もし留学が果たせたら、その機会を活かし、1日だけのインターンシップでもいいので、積極的に参加してみましょう。

- ・インターンシップは就職活動にとって重要なチャンスなので、積極的にチャレンジする。
- ・インターンシップで大切なことは職場体験を積むということなので、必ずしも志望する業種や会社こだわらず、参加することを優先する。
- ・アルバイトも出来るだけインターンシップに参加する視点から選ぶ。
- ・約7割の企業がインターンシップを実施している。
- ・これまでは7月から8月にかけて多かったが、秋から冬にかけても増加しており、企業によっては1年生から受け入れるなど多様化している。
- ・3、4年生の夏のインターンシップは採用に直結するケースが多い。
- ・日本の大学などで学んだ留学生にインターンなどを勧め、国内企業への就職率を高める計画もある。

2. 自己分析

～学年に関わらず出来るだけ早く取り組んでおきたい事～

出来るだけ早い機会にパートナーのIメイト会員や、我々就活支援事務局とも連絡・相談しながら着実に準備を進めて行きましょう。

いずれにしても翌日また気持ちが変わってもいいので、出来るだけ早い機会に自分のライフプランや、キャリアプランを練り、行動する為のモチベーションを構築する事をお勧めします。

① 自分ってどんな人？という質問を自分自身にしてみましょう。

自分の得意なものは何か、自分の能力を活かせる天職は何かなど、自分についての理解を深めて下さい。

- ・まずは好きなことや興味のあること、やっていると楽しいと思うことを出来るだけ書き出す。
- ・自分がやりたいと思っていることや将来の夢などを書き出し、それに優先順位をつける。
- ・今までの貴重な経験、体験を書き出す。
- ・気質などの遺伝的なものも含め、性格や特技等自分の特徴を出来るだけ書き出し、時には自分のことをよく知っている人にも相談して、出来るだけ多角的、客観的に書き出す。
(見方によって長所は短所、短所は長所になるので、長所となるような表現を心がける)

例えば、体が丈夫で長生きの家系、手先が器用、明るく人に好かれる性格、いざという時に頼れる知人友人が多い、ストレスに強い、博識、公的な資格を取得しているなど、書き出していくと、仕事に対する適性も判ってくると思います。

ただ誰でも自分を冷静に見るのは難しく、自分自身を誤って理解することもあるので、時には友人等に聞いて参考にしたり、チェックをして見ましょう。

② 自分は将来どんな人になりたい？という質問を自分自身にしてみましょう。

3年後、5年後、10年後の自分が、どこでどんな事をしていたいかを想像して下さい。きっと今やれる事、やらなければいけない事などはっきりして来ると思います。

3. 業種・業界や会社、業務内容についての分析

① 日本での就職の実態は就社なので、企業内に様々な仕事があることを理解するようにしましょう。

- ・職種を希望しても、その通りになるとは限らない。

② 業種・業界や特定企業の研究の進め方は以下の通りです。

- ・自分は何に関心があるのかを再確認をする。

- ・身近な人から業界の役割や企業についてよく聞き、目指す業界の過去と未来の理解に努める。
- ・社風や求められている人材像等、業界以外の要因も併せて企業研究を行う。
- ・業績、将来性、労働条件、企業理念、社風を調べ自分に合った企業を探す。

◆ ここで「業界」「業種」「職種」「職業」の違いを把握しておきましょう

業界とは？

産業そのものの事で、例えば自動車業界とはメーカー、輸入商社、ディーラー、自動車関連メディア等自動車に関するありとあらゆる企業が含まれます。

⇒どのような業界があるか？(カッコ内は特徴など)

主なものとして、メーカー(開発力、営業力)、商社(あらゆる国の企業や人、企業間同士を結ぶ取引のプロ)、金融(お金を融通し過不足を調整)、サービス(形のないものを提供し、豊かな暮らしを提供)、流通・小売り(生産者から消費者に至る消費の流れや、商品を消費者に販売する業務、IT革新により新ビジネスが生まれやすい環境にある)、マスコミ(大量情報を多数の人々に向け発信伝達、流通・小売同様変革が迫られている)など。

業種とは？

企業の行う事業の種別を示すもので、産業分類一覧での大分類では18業種、小分類では962業種に分類されています。

⇒どのような業種があるか？

自動車業界で言えばメーカーは製造業、ディーラーは販売業という事になる。

職種とは？

それぞれの企業の中で、従業員が担う仕事内容を示す呼称であり、実際に行っている職務(ジョブ)の種類のことを言う。

⇒どのような職種があるか？

様々な業種の企業にはそれぞれ人事、総務、経理、法務、経営企画、秘書、受付、営業、営業推進、貿易事務、広報、研究開発、設計、製造、証券アナリスト、アクチュアリー、翻訳、通訳、コンサルタント、デザイナー等々多数の職種がある。

職業とは？

生計を維持するために日常従事する仕事、要は何をしてお金を稼いでいるかという事で、労働省の職業分類によれば28,275種の職業名があげられている。

今後の傾向としては、高い専門性や技術を有する外国人の受け入れが拡大すると思われます。

高度専門職(研究者経営者)、経営管理(企業の経営者管理者)、技術・人文知識・国際業務(技術者、通訳、デザイナー、マーケティング業務など)、企業内転職(外国の事業所からの転勤)、特定活動、介護、技術管理職(海外子会社の工場長候補者などの日本での研修)は今後さらに入国しやすくなっていくでしょう。

第3章 就職活動の実際

1. エントリー（会社への応募登録）

・就職活動は、まず、エントリーからスタートします。エントリーとは、個々の企業への資料請求やセミナーへの申し込みです。エントリーに当たっては、必須項目となる自己分析と自分理解を進めておくことが重要です。

前もって自己分析、業種等の分析をすることは、エントリーを行う際、希望会社への自己アピールや会社への応募理由を述べる時に、客観性、合理性を持った記載内容となるので、大変有効な準備となります。

- ・順次ASIAN RECRUITING FORUMなどのエントリー受付が始まるので、これらの就職情報サイトをチェックし、先生や友達からも情報を入手する。（下記「要チェックの就職関連情報」参照）
- ・常に就職に関する情報把握に努め、タイミングを外さないように資料請求をしたり、就職情報サイトからエントリーする。
- ・経団連に属さないIT企業やベンチャー企業では早い時期から採用活動を開始する企業があるので、志望業種によっては直接企業のサイトをチェックしたり、インターンシップに応募する。

パソコン、スマホによる本格的な就活が始まっている

パソコン、スマホなくしての就活はあり得ない状況になっており、就職情報サイトのアプリを取得して、アプリを介してのエントリーや、説明会の予約をするのが一般化。エントリーシートに写真ではなく、動画を張り付けて送らせる企業もある。

<具体的な事例>

「45秒で自己PRの動画を撮って送って下さい」

「10秒であなたのモットーを話さない」

「貴方が人と違うところを1分間の動画で表現下さい」 等

◆ 海外学生向け会社説明会等、要チェックの就職関連情報

<日経HR社(アジ風提携先)関連(2017/2018の場合)>

・ASIAN RECRUITING FORUM in 東京

あらかじめエントリーした学生の中から選考に残った学生約100名が8月に東京で行われる

企業の面接に無料招待され、大手企業数十社との面接会に臨む。

なお、一部の参加企業では現地法人での採用も行うが、大半は日本の大手企業の本社採用で正社員としての雇用となる。

昨年は、3月初旬のタイから始まり、6月末までに9か国約50大学で説明会が実施された。

応募する学生は3月には下記ドメインがオープンするので、出来るだけ早くエントリーすること。

☛ <http://workjapan.nikkeihr.co.jp/>

・NIKKEI ASIAN RECRUITING FORUM 留学生

日本で学ぶ留学生対象のイベントで、昨年は、5月の2日間、2016～2017年に卒業または卒業予定の日本で学ぶ留学生が対象だった。登録の締め切りは4月13日。登録した学生の中から選抜された50名に交通費と宿泊費が支給された。

<リクルートキャリア社関連>

・WORK IN JAPAN

諸般の事情より2018年より中止し、今年は国内留学生向けのサイトを開設

☛ <https://job.rikunabi.com/agent/kaigai/lp/global/>

<その他>

・ベネッセ社の ASEAN JOB FAIR

・TRIUMPH社 北京新卒スカウトフェア

・パソナ、エン・ジャパン等の人材派遣会社のサイト

・企業ランキング、女性が活躍する会社ランキング、企業統治ランキング等の各種ランキング

2. エントリーシートの作成

～志望企業に採用されるためのエントリーシートの作成法～

○エントリーとは？

個々の企業への資料請求やセミナー等への申し込みのことです。

○エントリーシートとは？

採用募集企業と志望者が最初に出会う接点となる書類であり、志望動機や自己PR(資格・特技)等自分がどういう人間かを企業に伝える応募用紙で、最初の関門となります。

志望者の企画力／プレゼン力／交渉力を審査する資料となります。

○エントリーシートの目的と意義

企業は志望者が作成したエントリーシートをもとに書類審査を行い、それによって面接するかどうかを決めます。面接官はエントリーシートに書いてある内容について質問をするので、面接に備えてエントリーシートと履歴書は必ずコピーを取っておき、それに沿った受け答えをす

るようにしましょう。

○エントリーシートの入手

エントリーシートの入手方法は企業によって異なります。就職サイトや各企業サイトをチェックし、エントリー方法や採用の流れなどの確認をしておきましょう。

○エントリーシート作成・提出の注意点／留意点

- ① 読みやすい内容、形式であること。(補正液の使用は不可、必ず下書きすること)
- ② 質問に的確に回答し、読み手の興味を引く内容となるよう心掛けること。
- ③ 採用面接時に、もっと詳細に尋ねたいと思わせるような書き方をすること。
- ④ 必ず日本語のできる人にチェックしてもらうこと。
- ⑤ 締め切り間際は応募が集中するため、じっくり読んでもらうためにも早めに提出すること。
- ⑥ 入社後の配属や異動時の参考資料にもなるので、自分のキャリアビジョン(将来計画)を明確にしておくこと。

3. エントリーシートで大切なこと

○志望動機

業界／職種／企業について調べ、企業と自分との接点を明確にしておくことが大切。

就活では企業の知りたいことをしっかりと把握して、仕事能力をアピールしたり、好印象につながるポイントを探すこと。

<設問例>

- ・あなたの能力はどのような形で発揮できますか？
- ・当社で働くことになったら、あなたはどのような風に貢献できると思いますか？
- ・入社10年後のあなたはどんな人間になっていると思いますか？

○自己PR

自身のキャリアデザイン等をもとに、自分を客観的に見つけ、自分の興味や能力、価値観等を明らかにしておくことが大切。

⇒具体的には

- ・学校での研究課題や得意科目を記載する場合は、企業での仕事能力に直結するような記述にする。
- ・研究課題は専門分野が異なる人にも理解できるように書く。もし記載スペースがあれば、なぜその研究課題を選んだのか、なぜ得意科目なのかその理由を論理的に、具体的なエピソードを盛り込んで記述する。
- ・特技や趣味も仕事能力やそれを推測するための情報であることを頭に入れておく。

<設問例>

- ・学生時代に頑張ったことはなんですか？
- ・あなたの強みや弱みはどのようなところですか？

・あなたの人生のキャッチフレーズはなんですか？

○基本的な書き方

- ・他の人と異なる自分の個性を伝えることが大切。
- ・説得のあるものにするため具体的な時期、エピソードや必要に応じて数字などを明記する。
- ・日本語の文体や表現に注意する。ビジネス日本語であることを意識する。
- ・自分を売り込むことは大切だが、あくまでも真実の自分を伝え、嘘は書かない。

4. 履歴書について

○履歴書とは、

志望者の氏名、住所、学歴、所有資格・免許等自分についての履歴を客観的に記載し、顔写真も添付する正式な応募書類のことです。

一般的にはエントリーシートの提出後に提出を求められます。

○履歴書作成・提出の注意点／留意点

- ① 基本的な事務処理能力を判断されるので、誤字・脱字なども含め、ミスしないで書くこと。
- ② エントリーシートと同一内容の項目への記述にあたっては、エントリーシートと矛盾がないよう十分注意して、適切な要約とすること。
- ③ 原則手書きにするため、読みやすい文字で丁寧に書くこと。

5. 採用試験と面接

まず、面接が近づいた段階で大切なことを説明します。

① 一夜漬けでは間に合わない2つのポイント（自己PR、志望動機）とその対策

- ・代表的な質問にどう答えるか、時間をかけて準備しておく。
自己PRと志望動機をきちんと書けば、どんな質問にも対応出来るので、自己分析を事前に振り返っておく。
- ・面接は、自分がどんな人間か、どんなことをしたいかを伝える場。
- ・エントリーシートを書いた時点と今現在の考えの違いを確認しておく事。
就活は自己成長の期間でもあるから、数か月前に作ったエントリーシートと考えが違っていても構わないが、どのような経緯で変わったのかをきちんと整理し、伝えられるようにしておく。

② 面接に進む前のチェック

- ・自己分析は終わっているか : 面接では「自分の強み」を「自分の言葉」で伝える事が重要
- ・業界研究は出来ているか : 業界を知れば志望企業の位置や将来性等が理解できる
- ・企業研究は出来ているか : その会社に入社したいという熱意を伝えるのに必須
- ・自己PRの骨子は出来ているか : 自分自身の「人間的な魅力」を整理しておく

- ・志望動機は確かなものか : その会社で何をやりたいか、どう会社に貢献できるのか
- ・面接の基本マナーは身につけているか : 第1印象は非常に重要

③ 出発準備。小さなミスで人生が変わることもあるので、準備を着実にしておくこと

- ・面接会場は必ず事前に確認しておく。
- ・面接には余裕をもって出発する(30分前の到着が望ましい)。
- ・提出書類の再確認(写真の添付忘れやサイズの誤り、必要事項の記入漏れなど)。
- ・当日持参を指示された資料(成績証明書、履歴書等)を忘れないこと。

*参考：当日の持ち物

会場地図、会社案内・資料、エントリーシートと履歴書の写し、スケジュール帳、メモ帳、筆記用具、学生証、携帯電話など。

次に、実際の面接についてのポイントや注意点等を具体的に説明します。

① 面接の種類

- ・個人面接 : 面接官1名×就活生1名、面接官複数×就活生1名
- ・グループ面接 : 面接官複数×就活生複数
- ・グループディスカッション・グループワーク など。

② 面接(所要時間はだいたい1人20～25分程度)で評価されること

- ・第一印象
- ・コミュニケーション能力
- ・一緒に働くイメージが持てるかどうか
- ・熱意と意欲
- ・特徴と長所
- ・論理的思考が出来るか

③ 面接での注意点

- ・貧乏ゆすりをしない:癖のある人は練習時に友達に見てもらい、意識して直すこと
- ・しゃべり過ぎない:一回の受け答えの時間は一般的に30秒から1分
- ・他社の悪口を言わない:他社との比較でこの会社のいいところを話す
- ・他人の発言に影響されない:単に自分もそう思うだけではなく、自分の意見を付け加える
- ・言い訳をしない:自分にとって不利な質問でも言い訳をせず、潔く答える
- ・面接メモを作る:面接後は次の面接に備え、流れと内容を書き出し客観的に反省する

おわりに

以上、日本の企業に就職を希望するアジア風の学生の皆さんに役立つ情報を選んで記述しました。この内容についてわからないことがあれば、遠慮なくパートナーの I メイト会員、または、下記の就職活動支援担当までご照会ください。

また、このガイドには、日本での就職活動に関する基本的な情報を載せました。就職に関する最新の情報、より詳しい情報については、適宜、皆さんに「就職活動支援通信」を送ります。どうぞ楽しみに！

就職活動支援ホットライン(就活支援担当)

new-wind2006@npo-asia.org

以上